

# 平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日)

## 公益事業実施の概要

新材料及びこれに関連する科学技術分野における**公益事業 1**(研究助成、国際交流助成、国際シンポジウム助成の各事業)並びに**公益事業 2**(科学技術啓蒙助成事業)について計画通り実施した。

## 公益事業 1

### 1. 研究助成

#### (1)平成 27 年度(第 27 回)研究助成

昨年 3 月の第 10 回理事会で承認、決定した受領者 15 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は最高 200 万円で 15 件、総額 2,976 万円。なお、応募総数は 132 件であった。

#### (2)第 18 回研究成果報告会

平成 26 年度研究助成金受領者 15 名による研究成果報告会を、平成 27 年 12 月 10 ~ 11 日に(株)トヤマつくば研究所において開催した。

#### (3)平成 28 年度(第 28 回)研究助成

公募を平成 27 年 8 月 1 日に開始し 9 月 30 日に締切った。応募総数は 158 件であった。選考委員による書類審査を経て、選考委員会(平成 27 年 12 月 11 日)において受領候補者 12 名を選出した。第 13 回理事会で受領者を承認した。

### 2. 国際交流助成

#### (1)平成 27 年度(第 28 回)国際交流助成

公募を平成 27 年 3 月 31 日に締切り応募総数は 63 件であった。選考委員による書類審査により受領候補者 12 名を選出し、昨年 5 月の第 11 回理事会で承認、決定した。助成額は最高 25 万円、総額 250 万円。

#### (2)平成 28 年度(第 29 回)国際交流助成

平成 28 年 2 月 1 日に公募を開始し 3 月 31 日に締め切った。応募件数は 39 件であった。

### 3. 国際シンポジウム助成

#### (1)平成 27 年度(第 26 回)国際シンポジウム助成

昨年 3 月の第 10 回理事会で承認、決定した 6 件に助成した。助成額は 1 件 25 万円、総額 150 万円。

#### (2)平成 28 年度(第 27 回)国際シンポジウム助成

9 件の応募があった。平成 27 年 12 月 11 日の選考委員会において 9 件について審査し 6 件が助成候補として推薦された。第 13 回理事会で承認した。

## 公益事業 2

### 1. おもしろワクワク化学の世界展への助成(平成 27 年度(第 23 回))

昨年 3 月の第 10 回理事会で承認、決定された日本化学会中国四国支部主催の「おもしろワクワク化学の世界'15 鳥取化学展及び'15 徳島化学展ミニ版(日時:平成 27 年 8 月 6 ~ 11 日(鳥取市)、11 月 7 ~ 8 日(徳島市))に助成した。助成額 290 万円。

### 2. 少年少女発明クラブへの助成(平成 27 年度(第 9 回))

平成 27 年度も山口県内 7 つの少年少女発明クラブへ助成した。1 クラブ 10 万円、総額 70 万円。

平成27年度(第27回)研究助成受領者 (期間:平成27年6月より1年間)

(五十音順)

No	氏名	所属(申請時)	役職 (申請時)	助成金 (万円)
1	上村 忍	香川大学 工学部	講師	200
2	加藤 真一郎	群馬大学 大学院理工学研究府	助教	200
3	金井塚 勝彦	山形大学 理学部	准教授	200
4	木口 賢紀	東北大学 金属材料研究所	准教授	200
5	高坂 泰弘	大阪大学 大学院基礎工学研究科	助教	200
6	下間 靖彦	京都大学 大学院工学研究科	准教授	196
7	中村 修一	名古屋工業大学 大学院工学研究科	准教授	200
8	西本 能弘	大阪大学 大学院工学研究科	助教	198.5
9	林 文隆	信州大学 環境・エネルギー材料科学研究所	助教	185
10	人見 穰	同志社大学 理工学部	教授	200
11	三木 康嗣	京都大学 大学院工学研究科	准教授	200
12	道信 剛志	東京工業大学 大学院理工学研究科	准教授	200
13	蓑田 歩	筑波大学 生命環境系	助教	200
14	椴山 儀恵	分子科学研究所	准教授	200
15	吉本 惣一郎	熊本大学 大学院先端機構	准教授	196.5

平成27年度(第28回)国際交流助成受領者 (期間:平成27年6月より1年間)

(五十音順)

No	氏名	所属(申請時)	役職 (申請時)	助成金 (万円)
1	猪股 智彦	名古屋工業大学 大学院工学研究科	准教授	15
2	菊池 将一	神戸大学 大学院工学研究科	助教	20
3	北 憲一郎	産業技術総合研究所 中部センター	研究員	20
4	後藤 和馬	岡山大学 大学院自然科学研究科	助教	25
5	平 修	福井県立大学 生物資源学部	准教授	25
6	出水 庸介	国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部	室長	15
7	長谷川 真士	北里大学 理学部	講師	25
8	Han Mina	鳥取大学 大学院工学研究科	准教授	15
9	前野 禅	大阪大学 大学院基礎工学研究科	助教	25
10	松井 龍之介	三重大学 大学院工学研究科	准教授	25
11	守谷 誠	静岡大学 大学院理学研究科	講師	20
12	山本 貴広	産業技術総合研究所 ナノシステム研究部門	主任研究員	20

## 平成27年度(第26回)国際シンポジウム助成 (開催順)

### 1. 第9回超高速表面ダイナミクス国際シンポジウム

助成金額	25万円
主催団体	USD9 組織委員会
開催時期	平成27年5月25日～29日
開催場所	ラフォーレ琵琶湖(守山市)
規模	参加者95名(国内51名、海外44名)
目的と成果	この会議では、固体の表面・界面における超高速な電子や原子の動きを探求する研究最新の成果を報告し、将来への展望を検討した。特に今回は、レーザー分野と自由電子レーザー分野での時間分解測定研究の連携を図り、全体の発展と研究領域の拡大を目指した。また、近年発展が著しい、時間分解電子線回折・イメージングと有機半導体での電荷ダイナミクスのセッションも設けた。参加者全員が会場に宿泊し深夜までセッションを行い、熱心な議論が行われた。

### 2. 第7回レーザー先端材料加工国際会議

助成金額	25万円
主催団体	レーザー加工学会
開催時期	平成27年5月26日～29日
開催場所	北九州国際会議場(北九州市)
規模	参加者341名(国内162名、海外179名)
目的と成果	「レーザー先端材料加工国際会議(LAMP2015)」は、レーザー加工に関する最先端の研究に携わる研究者と産業界第一線の技術者が、最新情報と意見を直接交換できる場の提供というコンセプトのもとで開催しており、今回は第7回目として2015年5月26日から4日間、北九州国際会議場(福岡県北九州市)にて開催した。24カ国から約340名の参加者があり、250件を超える口頭発表およびポスター発表が行われた。レーザー加工の現状から次世代技術まで、幅広く議論が展開され、非常に有意義なものとなった。

### 3. 第16回ナノチューブ科学と応用に関する国際会議

助成金額	25万円
主催団体	第16回ナノチューブ科学と応用に関する国際会議組織委員会
開催時期	平成27年6月29日～7月3日
開催場所	名古屋大学(名古屋市)
規模	参加者765名(国内440名、海外325名)
目的と成果	カーボンナノチューブ(CNT)と関連するナノカーボンの研究において、最新の研究を行っている世界中の研究者と直接交流できる又とない機会を提供することを目的とした。日本が世界に誇るCNTとナノカーボンの分野において世界で最も伝統と権威のある本会議を日本で開催することは、日本の科学、技術と産業の発展にとって大変に意義深い。参加者数は765名、口頭発表件数36件、ポスター発表数520件、パネルディスカッション6件の発表が行なわれた。世界におけるCNT研究開発の最新情報をシェアする極めて重要なフォーラムであった。今回は、「カーボンナノチューブの実用化セッション」を設け、多くの参加者にとってCNTの応用と実用化の指針となった。

#### 4. 第11回高分子工学に基づく先端ポリマーに関する国際集会

助成金額 25万円

主催団体 APME2015 組織委員会

開催時期 平成27年10月18日～22日

開催場所 パシフィコ横浜（横浜市）

規模 参加者447名（国内266名、海外181名）

目的と成果 第11回高分子工学に基づく先端ポリマーに関する国際集会（APME2015）を開催した。高分子化学、高分子物性、高分子成形、自己組織化、生体関連高分子等の分野で研究を先導する世界各国の研究者が一堂に会し、基調講演4件、招待講演84件、一般講演100件、さらにポスター発表255件が行われた。高分子に関わる諸分野における最新の研究成果が発信され、それをもとに活発な議論や情報交換が行われ、今後の各分野の発展、さらには新学術領域の開拓にむけた国際交流の場となった。

#### 5. 第6回 族窒化物結晶成長国際シンポジウム

助成金額 25万円

主催団体 日本結晶成長学会

開催時期 平成27年11月8日～12日

開催場所 アクトシティ浜松（浜松市）

規模 参加者416名（国内261名、海外155名）

目的と成果 第6回窒化物半導体結晶成長国際シンポジウム（ISGN6）は高性能・高信頼の無線通信用デバイスとして期待される窒化物半導体の結晶成長を基盤とする最新の研究成果を発表・討論することを目的として11月8～12日にアクトシティ浜松で開催された。天野・中村両教授によるノーベル物理学賞受賞記念講演、基調講演4件、キーノート講演6件、一般論文発表277件（招待講演含む）が行われ、合計420人の参加があった。III族窒化物結晶の成長に特化した深い議論が行われ、大変有意義な会議となった。

#### 6. 第13回国際有機化学京都会議

助成金額 25万円

主催団体 一般社団法人近畿化学協会

開催時期 平成27年11月9日～13日

開催場所 リーガロイヤルホテル京都（京都市）

規模 参加者923名（国内832名、海外91名）

目的と成果 第13回国際有機化学京都会議（IKCOC-13）を2015年11月9日から13日までの5日間、リーガロイヤルホテル京都にて開催した。本会議では“有機合成手法の革新”、“材料科学のための有機化学”、“生命科学のための有機化学”に関する世界的に著名な研究者の基調講演、招待講演と、一般口頭発表、ポスター発表が行われた。また第3回IKCOC賞をスイスのDieter Seebach教授に授与した。本会議には国内外から1,000名近くの化学者が参加し、最新の研究成果の発表と活発な討論が行われ、本会議は成功裏に終了した。

## 平成 27 年度(第 23 回) 科学技術啓蒙助成

行事名	<b>おもしろワクワク化学の世界 '15 鳥取化学展</b>
助成額	250 万円
主催	日本化学会中国四国支部
共催	鳥取大学、(公財)徳山科学技術振興財団
後援	鳥取県、鳥取市、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、(独)鳥取県産業技術センター、(株)化学同人、新日本海新聞社、朝日新聞鳥取総局、読売新聞鳥取支局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、NHK 鳥取放送局
大会委員長	今田泰嗣(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授、平成 27 年度日本化学会中国四国支部支部長)
実行委員長	松浦和則(鳥取大学大学院工学研究科教授)
開催期間	平成 27 年 8 月 6 日(木)～8 月 11 日(火) 6 日間
場所	鳥取大丸(鳥取市)
展示ブース	実験ブース数 25 ブース
参加対象者	小、中学生およびその保護者、高校生、一般 (3,154 名)
行事概要	本科学展の目的は、次世代を担う青少年に科学技術の重要性・素晴らしさ・不思議さ・面白さ・自然環境との調和を化学の立場から紹介することにある。化学的な展示だけではなく体験実験も行うことにより、化学の面白さを実感して頂けた。子供達の理科離れが目立ち始めて久しいが、日常生活に関連した化学現象の実験や最新の化学技術の展示を通して、学校で学ぶ理科と身の回りで実際に役だっている化学製品との繋がりも易しく紹介した。6 日間で 3,154 名の参加者があり、「毎年開催してほしい」という声を多数頂いた。
行事名	<b>おもしろワクワク化学の世界 '15 徳島化学展 -ミニ版-</b>
助成額	40 万円
主催	日本化学会中国四国支部、徳島大学総合科学部、工学部
共催	(公財)徳山科学技術振興財団
後援	鳴門教育大学、徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、徳島化学工学懇話会
大会委員長	今田泰嗣(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授、平成 27 年度日本化学会中国四国支部支部長)
実行委員長	右手浩一(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授)
実行委員	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部、鳴門教育大学自然・生活系教育部、の教職員
開催期間	平成 27 年 11 月 7 日(土)～11 月 8 日(日) 2 日間
場所	徳島大学常三島キャンパス(徳島市)
展示ブース	実験ブース数 9 ブース
参加対象者	小、中学生およびその保護者、高校生、一般 (350 名)
行事概要	徳島大学の常三島キャンパスにおいて、徳島大学工学部・総合科学部・総合技術センター及び鳴門教育大学が合同で開催した。今回のイベントは主に化学の要素が濃いテーマを中心として実験を行なった。子ども達は楽しみながらも真剣な表情で実験に参加していた。化学の面白さや不思議さを感じ化学に親しんで貰うことができたと思う。

事業名	少年少女発明クラブへの助成
助成額	1クラブ 10万円(7クラブ合計 70万円)
主催	(一社)山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運営組織	各クラブの企画運営委員会
活動期間	平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 (1年間)
場所	山口県内公共施設
参加対象者	小、中学生およびその保護者
行事概要	少年少女発明クラブは、現在、全国に 215 のクラブがあり、約 8,500 名のこどもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブが活動している。(下関市、山口市、宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町)本活動は、子供達に地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。